



● 人権教育 ●

相手の気持ちを大切にした言動ができる 生徒の育成を目指して

SNS、LINE等の適切な活用とメディアとの安全なつきあい方を
学習することを通して

長野県 上田市立第四中学校（校長 高橋幸彦）

- ① 学年別による情報モラル教育講座の実施
- ② 携帯電話・スマートフォンに関するアンケート調査の実施
- ③ アンケートを元に、全校パネルディスカッションによる意見交換
- ④ 文化祭時に情報モラルコーナーを設置し、学校の実態と取り組みを紹介
- ⑤ 自分の心、相手の気持ちを大切にするための人権講演会の実施
- ⑥ P T A 講演会で保護者向け講演会「心をつなげるメディアの利用」の実施

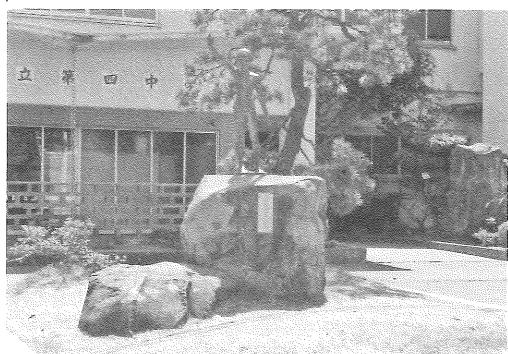
はじめに

上田市は中央に日本最長の千曲川（信濃川）が流れ、菅平高原や美ヶ原高原の雄大な自然に囲まれ、信州の政治と文化の中心として千二百年余の歴史が脈々と流れ続ける町です。そして、徳川の大将軍を二度にわたって退けた知将・真田昌幸公や大阪の陣での奮闘ぶりから日本一の兵と称えられた真田幸村公ら真田氏の歴史浪漫が薫る町でもあります。

本校は、今年で創立60周年を迎え、上田市でも大規模校のひとつとして、576名の生徒が在籍しています。学校目標である「自己をみつめ、友と協力して、明るく逞しく生き抜く生徒」の育成を目指し、今まで育んできた伝統を大切にし、文武両道を唱え、日々邁進しております。

特に、生活面では「届くあいさつ」、学習面では「四中生学びスタイル」の浸透を目指して、日々の教育活動を行っています。

その成果はすこしずつ現れ、保護者や地域の方々にも評価をいただけるようになりました。



◆ 第四中学校「希望と躍進」像

I 研究の概要

1. テーマ設定の理由

上田市内でもネットにつながる携帯等の所有率が77%と高い本校では、ここ数年、各学年の実態に合わせた情報モラル教育を実施しています。しかし、LINEをはじめとするSNSに起因するトラブル、人権を侵害するような事案が、わずかではありますか報告されております。

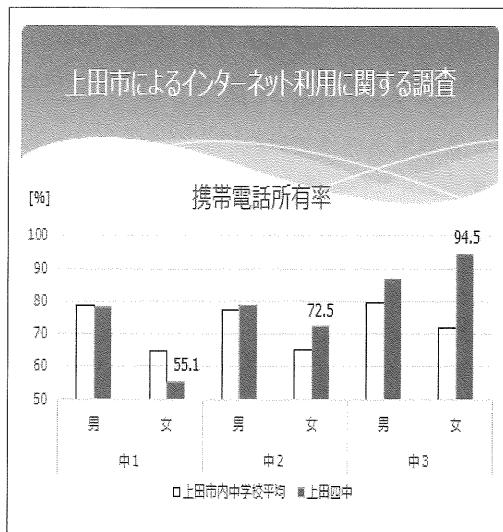
この問題に目を向けた対策は急務であると考え、親子でSNS、LINE等の適切な使い方や正しい知識を身につけ、メディアとの安全なつきあい方を切り口に学習することで、周りの人の気持ちを大切にした言動ができるようになってほしいとの願いをもち、本テーマを設定しました。

2. 研究の方向

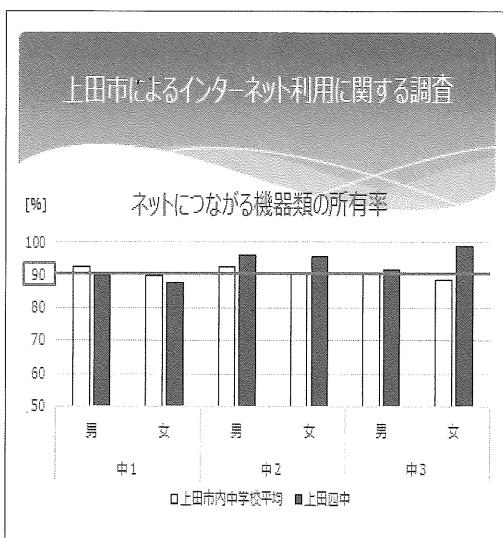
機器の活用場面や管理場所が家庭であること等を踏まえて、本研究では、「学校」「家庭」「地域」の三者が連携して推進していくこととし、以下のように展開を考えました。

- ① インターネットや電子メディア機器を、安全に活用するために、親子でSNS、LINE等のメディアの適切な使用法や正しい知識についての理解を深め、親子で共通認識を持つ。
- ② SNS、LINE等に関する様々な人権侵害問題をもとに、相手意識を大切にした言葉の使い方、かかわり方等、時と場に応じた言動について具体的に学び、常に相手の立場や気持ちを考慮した、利用に相応しい力を身につける。

③ 生徒、保護者合同で「SNS、LINE等のメディアに関する諸問題について意見交換」を行ったり、生徒同士で話し合ったりする中で、良好な人間関係やメディアとの安全なつきあい方を、自分たちで考えていく。



◆ 上田市と四中の携帯電話所有率の違い



◆ 上田市と四中のネットにつながる機器類の所有率の違い

多くの生徒が現実的に携帯電話等などを所有し、ネットに接続して、利用している



「持たせるか・持たせないか」「使う・使わない」の議論をしている場合ではない



「どのようにうまく付き合えばいいのか」
を考えるべきではないか？

- ◆SNS、LINE 等の正しい知識、情報モラルを知る
- ◆親子で SNS、LINE 等の適切な使い方ができる



研究テーマ

「相手の気持ちを大切にした言動ができる生徒の育成を目指して」
～SNS 等のメディアの適切な活用と安全なつきあい方の学習を通して～

3. 研究実践内容

- (1) 学年毎による「中学生のための S N S 危機管理講座」の実施（4月）
- (2) 「情報モラルに関するアンケート」を生徒へ配付・集計（5月）
- (3) 「情報モラル親子学習会」の実施 全校パネルディスカッション（6月）
- (4) 情報モラルコーナーの設置（9月）
- (5) 人権講演会の実施（11月）
- (6) PTA情報モラル講演会の実施（2月）

II 実践の様子から

(1) 学年毎による「中学生のための S N S 危機管理講座」の実施（4月）

講師：上田市城南公民館社会教育
指導員 矢澤智都枝さん

◇ 1年生：「S N S での落とし穴 ～個人情報を守る～」

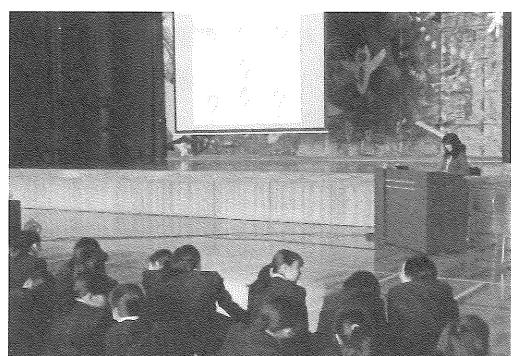
- ① S N S について
- ② 県内の中高生のトラブル
 - ・個人情報流失
 - ・S N S トラブル
 - ・スマホ依存
 - ・性被害、犯罪被害
 - ・睡眠と脳への影響

《生徒感想：一部》

- インターネットは普段から自分も使っているので、何かあったらすぐに大人に相談しようと思った。
- S N S は楽しいこともあるけど、危険につながるということを忘れずに、自分でコントロールしてスマホを利用したい。

◇ 2年生：「S N S でのコミュニケーション～アプリのトラブル対策～」

- ① スマホ・ネットの安全な使い方
- ② トラブル事例
 - ・写真、動画投稿
 - ・写真、動画流失
 - ・ネットのコミュニケーション



◆ 講座の様子から

《生徒感想：一部》

- 写真を勝手にのせると、いろんな事が分かってしまって怖いなあと思った。自分も勝手に写真をのせたりしないようしたい。
- 動画やSNSは楽しいし、便利だからこそ、使い方をまちがえると、加害者にも被害者にもなることを知った。よく考えて使おうと思った。
- 見知らぬ人とのメッセージなどでやりとりをしないようにしたい。また、危ないサイトには入らないよう気をつけたい。

◇ 3年生：「SNSの受発信で得るもの失うもの～自分達の将来を守る～」

- スマホ、ネットの賢い使い方
- トラブル事例
 - 写真、動画の投稿
 - 写真、動画流失
 - LINE、ツイッターの書き込み
 - スマホ依存・性被害、犯罪被害
 - スマホが及ぼす心身への影響

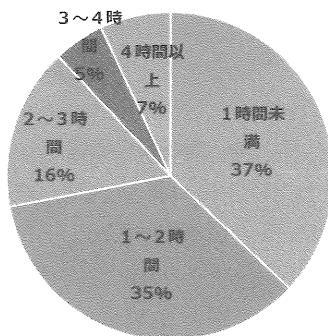
《生徒感想：一部》

- ネットには正しい情報もあれば、間違った情報もある。1つ1つの情報が本当に正しいものなのかよく考えながら利用したい。
- ネットで個人情報を一度でも流したら、二度と消すことはできないことを考えながら使う事が大切だとわかった。
- 自分から情報を発信する場合もその情報が正確か、しっかり確かめてから発信するようにする。
- ネット上に友だちの悪口など掲載してしまったら絶対に消すことができない、自分がやれたら嫌なことはやらないようにネットを有効に活用したい。

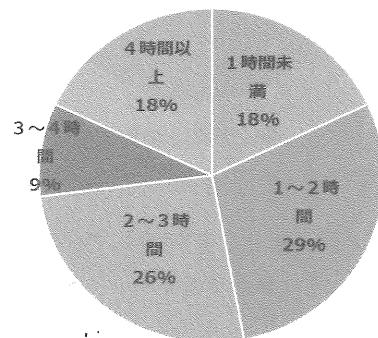
(2) 「情報モラルに関するアンケート」を生徒へ配付・集計（5月）

<アンケート内容> (一部)

◇ インターネットをどのくらい利用していますか？

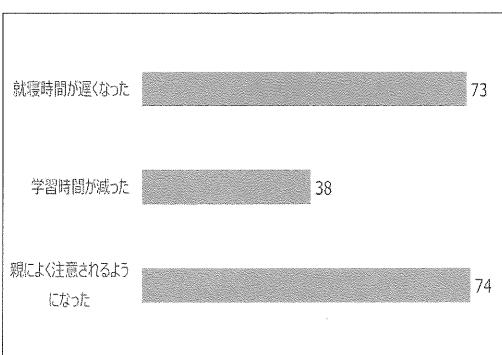


◆ 平日のネット利用時間

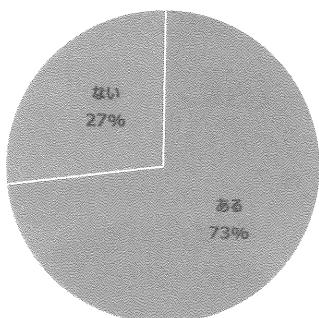


◆ 休日のネット利用時間

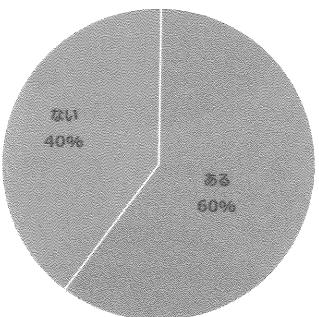
◇ インターネットの利用で、何か、生活面への影響はありますか？



◇ 家庭内に何かルールはありますか？



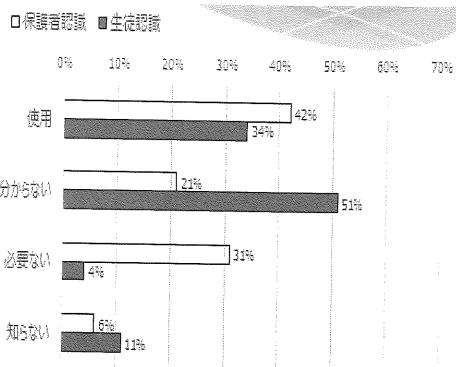
◆ 保護者の認識



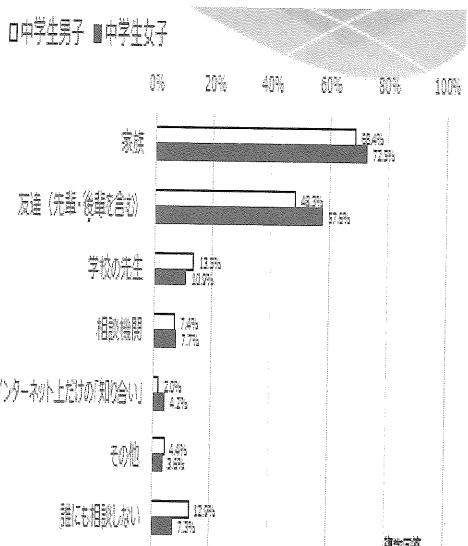
◆ 生徒の認識

- 知らないHPは開かない
- 目が悪くなるでしょ
- 早く風呂に入れ
- 夜更かし禁止
- スマホ使いすぎ

◇ フィルタリングしていますか？



◇ インターネットで嫌な思いをしたとき誰に相談しますか？



(矢澤さんの資料より)

◇ 親によく言われることは何ですか？

- 勝手にアカウント登録しないで
- ゲームしないで勉強しなさい
- 約束の時間がすぎているよ

(3) 「情報モラル親子学習会」の実施
全校パネルディスカッション（6月）

- 5月に実施したアンケートを元に
パネリストによる意見交換
コーディネーター：上田市城南公民館社会教育指導員 矢澤智都枝さん
参加者：全校生徒、保護者、職員
パネリスト：各学級代表者 1名
(生徒計 18名)
保護者 4名 職員 2名

- パネリストのまとめの一言
 - これから情報化社会を生きていく上で、ネットの中には正しい情報だけでなく、間違った情報もあるので、それを見極める力が大切だと思います。危ないと聞いても、正直、自分は大丈夫だと思っていたが、もし、危険な目に遭ったら一番味方になってくれるのは家族なので、家族内のルールを見直したい。

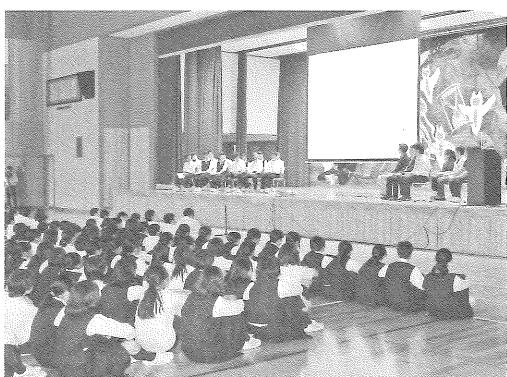
(3年生男子)

- 自分の中学の頃は10年前で、そのころに比べると今は全然違う。ネットを使えることは大切だが、正しく使う事が一番。ネットだといろんな人と繋がることができるが、今、横にいる友だちや仲間を大切にして欲しい。危ないサイトには行かない等、子どもたちも危険性を知っていて、もしかしたら、自分より知っているかもしれない。今日をきっかけにして一人ひとりで考えてほしい。

(職員代表)

- もっと自由に使わせてほしいという意見が大半かと思っていたので、子どもたちから大人に、もっと見守ってもらいたいという意見が多く、驚きました。子どもと親の間にはギャップがあることも感じました。面と向かった1対1のコミュニケーションが基本だと思いますので、これから情報社会がどんなに発展して

も、目の前の相手を思いやる気持ちが大切。そのことを、親や先生、地域の大人たちも子どもに伝えていく必要があると思いました。今日は子どもたちの声が聴けて良かったです。(保護者代表)



◆ パネルディスカッションの様子

- パネルディスカッション後の生徒の感想

- ネットにはメリットがあるが、デメリットもあって便利だけれど、使い方を間違えると自分の個人情報など知らない人に分かってしまう。ネットは正しい使い方をしたい。大人に「やりすぎだよ」などと言われない程度にゲームや動画を見るようにしたい。時間を決めて使う。

(1年生男子)

- 親子でのディスカッションだったので親の思っている事と子どもが思っている事を交互に聞けたので、どう思っているのかを知ることができて良かった。先生が心配している事、インターネットには、悪い事もたくさんあるので気をつけよう改めて感じた。 (2年生男子)
- ステージ上にいる生徒だけで進んでいくのではなく、会場に座っていた生徒や親たちにも、質問が振られたので良かったです。

会場に座っていた私たちもいろいろ意見を考えながら聞くことができたので、楽しかったです。 (3年生女子)

- 四中生のSNS使用状況がリアルに分かり、実際に辛い思いをしている事を知り、家族でも、子どもとしっかり向き合おうと思った。 (保護者)
- ディスカッションで興味が湧きました。親子でスマホについて話すことがなかつたので、親子で話を聞くことができて良かった。また、家で話題にできる。 (保護者)



◆ 信濃毎日新聞 2018年6月23日

朝刊の記事より

(4) 情報モラルコーナーの設置 (9月)

9月の文化祭に合わせて、「四中情報モラルコーナー」を設置。

(掲示内容)

- 人権情報モラルテーマ
- 四中の実態 (アンケート結果)
- 情報モラル学習会の様子
- 活動の成果、課題 など

(5) 自分の心、相手の気持ちを大切にするための人権講演会の実施

11月9日 (金) 参観日午後

演題「命の授業」

講師：ワタナベエンターテイメント

所属 ゴルゴ松本さん

(講演内容)

- 未来について
- 言葉について
- 命について

《生徒の感想から》

- 漢字の説明から上手に話をつなげて分かりやすく説明してくれるのがすごいと思いました。ゴルゴ松本さんのお話を聞いて「生きる」ということは責任があると思いました。その理由は次の世代へ命をつなぐためです。自分はお母さんとお父さんが結婚してくれたからいるのだと改めて分かりました。そしていじめをすると自分に返ってくるし、いじめられたらだれかに相談することはとても大切なことだと思いました。私は改めて1日1日を大切に生きていきたいと思いました。ゴルゴ松本さんの産声上手でした！

(1年生女子)

- ゴルゴ松本さんの命の授業をうけて、2年生の時に道徳でやったけど本物が来てすごいと思いました。ゴルゴさんはとても大切なことを言っていて、去年やった時の内容はほとんど忘れてしまって、ああなるほどすごいなと思いました。短い時間だったけど本物の命の授業が受けることができてよかったです。

(3年生女子)

(6) PTA情報モラル講演会の実施 (2月)

2月4日 (月) 参観日の午後

演題「心をつなげるメディアの活用

～大人が知っておくべきこと～」

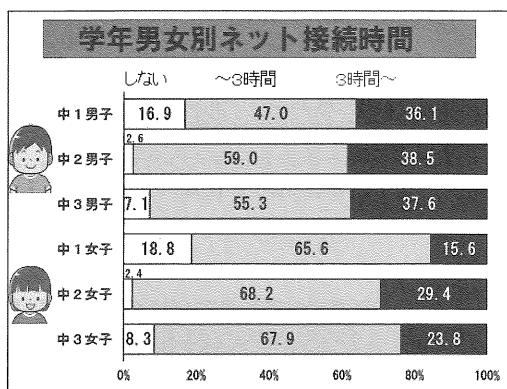
講師：兵庫県立大学環境人間学部

准教授 竹内和雄先生

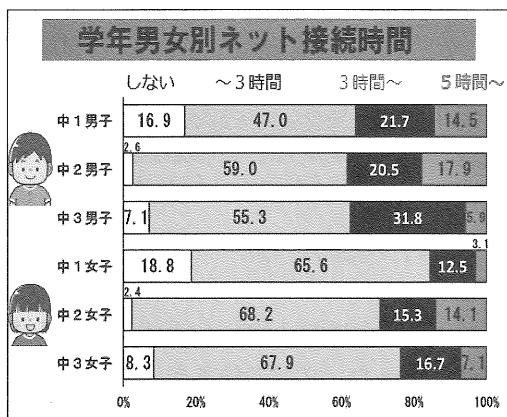
(講演内容)

- 四中の生徒の様子(アンケート分析)
- 四中近郊のSNSの状況
- アプリの紹介と実態
- 具体的な事例
- 対策方法について

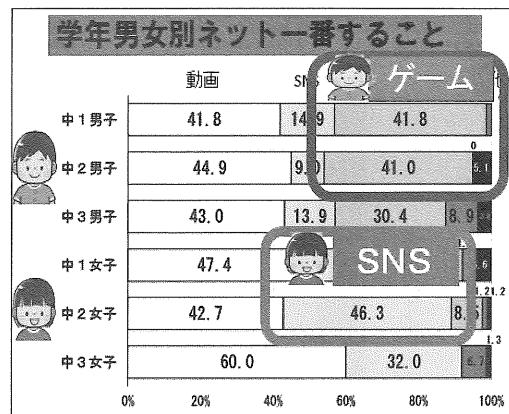
◇ 四中生のアンケート結果から



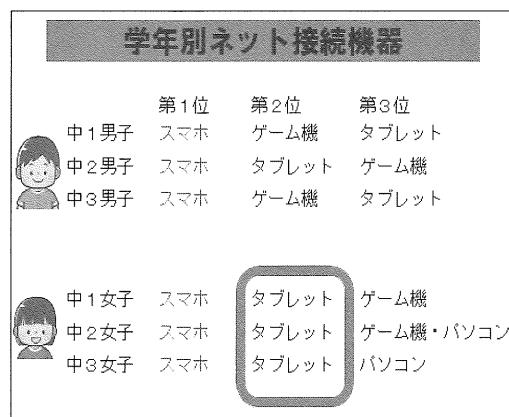
[男子が危険！勉強どころではない！]



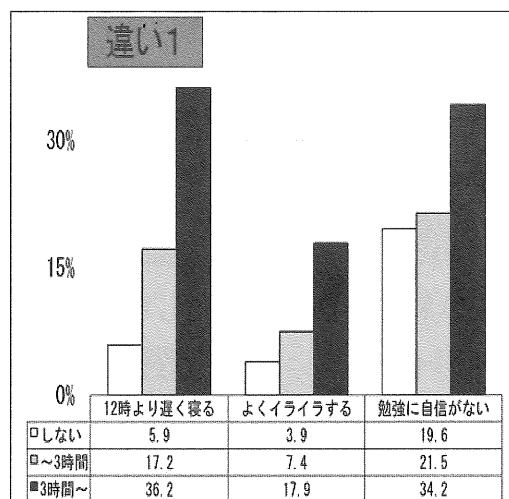
[5時間以上が中1、2の男子と中2の女子に多い！]



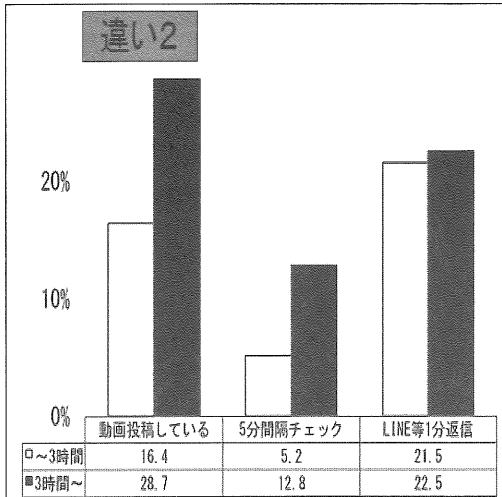
[中1、2男子はゲーム！中2女子はSNS！]



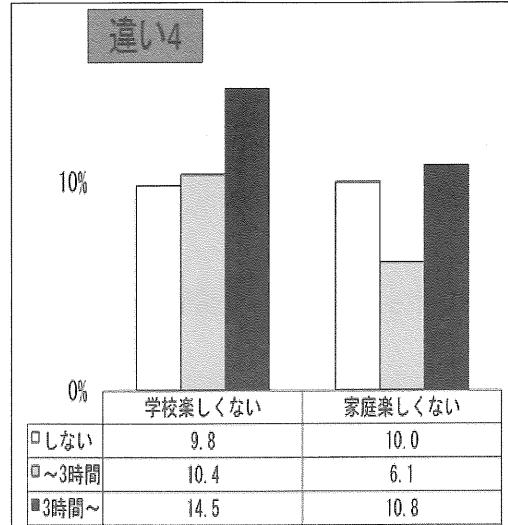
[女子のタブレットが上位に]



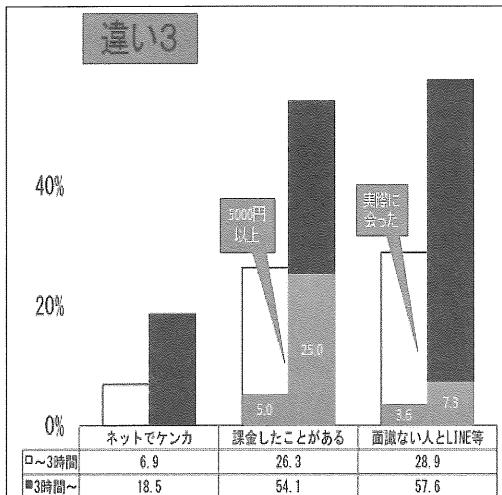
[利用時間との関係1]



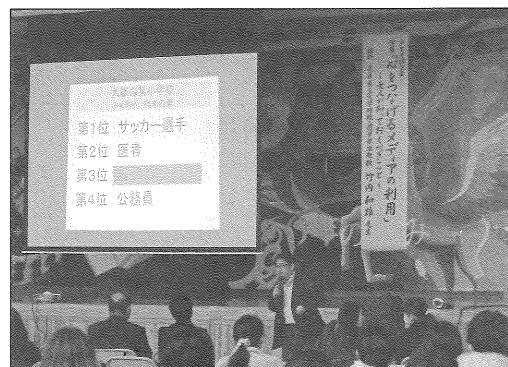
〔利用時間との関係2〕



〔利用時間との関係4〕

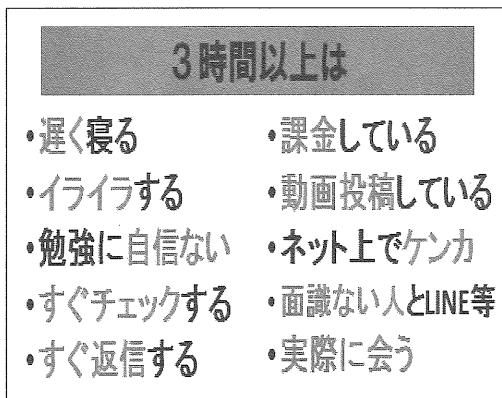


〔利用時間との関係3〕



◆ 竹内和雄先生の講演の様子

《保護者の感想から》



- ・親と子の感覚の違いがすごくよくわかり良かった。文字の怖さがよくわかった。
- ・親が知らないところで、いろいろな事が起きている。もっとしっかりコミュニケーションを取っていきたいと思う。
- ・もう少し聞きたいくらいとても良い講演会でした。大人から見て何が楽しいのかな?と思うことばかりですが、子どもとよく話し合って使わせてていきたい。

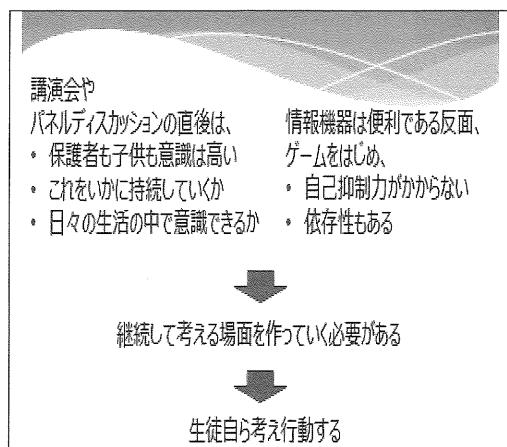
- ・高校生になる前に携帯を持たせた方が良いのかと思っていたが、今日の講演が聞けて、良かった。よく話し合って持たせようと思います。

III 成果と課題

1. 活動の成果

- 生徒も保護者も関心のある話題「SNS等を含んだ情報モラル」を取り上げ、本校の実情がわかるアンケート結果をもとに話し合った事で、生徒、保護者がより身近な問題としてとらえ、自分の家庭問題として考える良い機会となった。
- 思春期で難しい年頃の子ども達が、どんなことを考えているのかを直接聞く良い機会にもなり、このことをきっかけに、家庭で話をしたり、家庭のルールについて考えたりすることができた。
- 大人が思っているよりも子どもたち自身が問題意識をもっていることがわかった。
- スマホをはじめとした機器の扱いについて、悩んでいる保護者からすると、他の家庭での実情もわかり具体的にどうしていくかという良いヒントにもなった。
- スマホ、ネット問題に精通した専門家をお呼びして話を来ていただくことで、リアルな子どもの現状を知ることで、より現実的に考える機会をもつことができた。

2. 今後の課題



- 生徒が学習したことをいかし、自ら自己をコントロールできるようになっていってほしいと願っています。
今後の取り組みとして、生徒達による意見交換から、生徒会の1つの活動として、メディアコントロールをする動きにつなげていきたいと考えています。

おわりに

上田市城南公民館社会教育指導員の矢澤智都枝さん、兵庫県立大学環境人間学部准教授の竹内和雄先生をはじめ、ご協力くださった多くの方々に感謝申し上げます。

また、このような貴重な場を与えてくださった「公益財団法人日本教育科学研究所」の関係者の各位にも感謝申し上げます。

(教務主任：内山和久)